



「可能性」



レイングトイン
レディジョイ
可憐

私の両親は父がアメリカ人、そして母が日本人です。私たちが兄弟姉妹は、日本で生まれ育ちましたが、法律上、22歳になったら、国籍を決めなければなりません。両親は、私たちにアメリカの文化も知ってもらいたいことや、国籍の選択に備え、私たちをアメリカの高校に行かせることにしました。両親は、私たちが将来アメリカに居住するという可能性も提供しようと考えました。

私は中学まで日本に住み、それから渡米しました。その時の私は、日本とは違う環境や文化に不安を募らせていました。今まで慣れてきた土地、環境、文化、言語、そして一緒にいた友達や家族から離れ、新たな一歩を踏み出さなければなりません。正直、渡米したくないという思いがありました。しかし、米国での経験は私の目を開かせてくれました。当初は気付きませんでした。後で振り返ってみれば、米国での生活や経験は私の人生の中で、貴重な経験でした。これ

らを通して、私は、人には未知の可能性があることを学び、可能性の視野を広げることができました。

私と兄は、父のいとこの家族と二年間生活しました。私たちは、その家族の子どもたちと一緒に高校へ通いました。アメリカでの生活は、不安に思っていた通り、今までは違う経験でした。日本にいた時、英語に自信を持っていましたが、やはりアメリカでは言葉の壁にぶつかりました。まだまだ勉強することがたくさんあることに気付きました。自分の、英文の本を読む遅さや、先生の質問が理解できなかったこと等に涙したこともありました。しかし、周りには、兄や親戚の人たち、先生たちが気にかけてくれ、助けてくれました。だからこそ、私は、今の自分でも驚くほどに、勉強に励むことができたと思います。ただひたすら、置かれている状況の中で、どれだけ自分の力を発揮できるかと、挑戦していました。

私は努力し、周りの人のアドバイスを聞いたたりして、飛び級をし、早く高校を卒業することができました。そして、音楽の勉強をする為に、カナダの大学へ進学し、今年の春、卒業を迎えようとしています。振り返ればあつという間でしたが、よくよく思い出してみると、その時、その時の状況や感情が思い出せます。

私の周りの人は、「若い頃は、自分は何でもできる、と信じきっていた。」と、懐かしそうに、昔の自分をよく振り返ります。私は、人はやろうと思えば何でもできる、と本当に信じています。そして、これからも信じていきたいです。人にはいろんな機会が訪れます。進学や就職、そして人間関係などを通して成長します。しかし、決して、自分だけの力で全てが成せるとは言えません。私は、家族や友達、先生たちの助けを得て、ここまで来れました。自分一人では何もできなかったと思います。周りの皆に感謝したいです。

私たちには、未知の可能性があります。どんなに少しの可能性でも、努力をする意欲さえあれば、成功へとつながります。これが不可能を可能へと変える「鍵」になると思います。どんな状況や立場にあっても、意欲をもって取り組めば、何でもできると思います。これから何が起るかわかりません。また不安もあると思います。しかし、全て自分一人で背負わなくても良いと思います。自分一人の世界だけに、生きてはいけなと思います。私の可能性が広がったのも、今まで自分を助けてくれた人たちがいたからです。自分が今まで助けられたように、周りのことも思いやり、お互いに助け合うことが必要です。私たちは、今までの努力や経験、そしてこれから与えられる一つ一つの機会を大切にしながら、助け合って生きていくべきだと思います。